

2023 JUA/EAU Resident Programme 参加報告

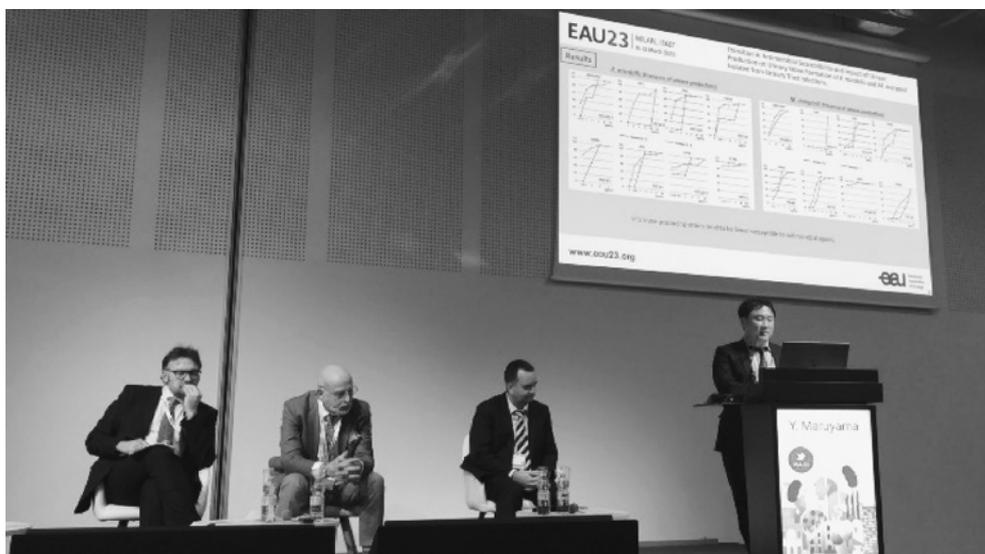
丸山 雄樹 (岡山大)

この度、2023年3月8日から12日の間にイタリアのミラノで開催された、欧州泌尿器科学会総会 (EAU23) に The JUA/EAU Resident Programme の一環として参加させていただきました。EAUは世界最大の泌尿器科学術集会で世界各地から演題の登録があります。私自身、後期研修医3年目の時にEAU19 (バルセロナ) で初めて自身の研究成果を発表する機会がありましたが、その際は自身の発表を無事終わらせることに必死であったため、学会自体を存分に楽しむことができず、次こそは、と思ったことを覚えています。その後、コロナ禍の煽りをうけ、延期等を経て、現地開催は去年のEAU22 (アムステルダム) から再開となっており、Resident Programme は今年から3年越しに再開されました。本プログラムはJUAと海外学会との国際交流事業の一環として開始され、滞在費と学会参加費のサポートのもと、単に学会に出席するのみならず、レセプションやそのほか学会期間中に開催されるイベント等に参加できるという非常に貴重な経験ができるプログラムとなっています。

今回、幸いにも演題が一つ通ったため、「Transition in antimicrobial susceptibility and impact of urease production on urinary stone formation of *P. mirabilis* and *M. morganii* isolated from urinary tract infections」という題目を発表させていただきました。拙い英語での久々の発表はやはりガチガチに緊張しましたが、前回の反省を生かし、今回は自身の発表だけでなく、他の先生方の質の高い研究発表や、ベストポスターの閲覧、機械展示

などを見て回り、その規模の大きさや内容の濃さに圧倒されながらも、最新の知見や新たなデバイスなど、非常に刺激的で勉強になる時間を楽しむことができました。また、一番の思い出として残っているのは、同じくResident Programmeに参加されていた、楊井先生・青柳先生と食事をし、新しい交友関係を築けたことです。特に、YUORPartyなる各国の若手を中心とした懇親会は、日本でいうところのクラブのような会場で、爆音でmusicが流れており会話もよく聞こえない中で交流をはかるとい、海外初心者である私には少々難易度の高い催しでしたが、楊井先生の積極的に海外の先生に話かけにいく姿に感化され、最終的には一緒にイタリア・フランス・スペイン・オーストラリアなど様々な国の先生と話をすることができ、非常に良い経験となりました。コロナ禍となった数年間、とりわけ交友関係が狭い日々を送っておいりましたので、同世代の他の医局の先生との関りを持たれたこと、情報共有・交換をできた事を大変うれしく思うと共に、今後もご縁を継続できたら幸甚でございます。

国際学会参加にあたっては、会場での新知見の収集や、意見交換がその大きな意義となっておりますが、同時に開催地ならではの食事や街並み散策・名所巡りも醍醐味であると言えます。イタリア名物であるピザやパスタに舌鼓をうち、ドゥオーモ (大聖堂) や、レオナルドダヴィンチ作の最後の晩餐の観覧、そして、晩に皆でサンシーロスタジアムでACミランを応援するなど、現地の文化に触れる事ができ、医学のみならず、人生経験としても



発表をする筆者 (右端)

非常に有意義な参加であったと感慨にふける限りでございます。この経験を、日々の臨床や研究の糧として、頑張っていきたいと思えます。

最後になりますが、本交換プログラムにご推薦いただきました、当教室の那須保友学長、荒木元朗教授をはじめ、このような機会を与えて下さった、国際委員会の先生方ならびに JUA/EAU の関係者の皆様に、この場を借りて、厚く御礼申し上げます。誠にありがとうございました。



最後の晩餐に圧倒される筆者（右）